

北の湘南伊達は我がふるさと

東京伊達会会長代行 高橋郁夫

東京伊達会は、昭和59年創立で昨年在25年の節目となる。

当会は5年目毎に記念旅行を実施し、これまで先祖のふるさとである宮城県日理町を2度訪問し、町との交流を深めている、他に伊達ゆかりの地として、愛媛県宇和島、和歌山県高野山等を訪れている。25年目の昨年、初めての「ふるさと訪問の旅」を実施いたしました。

参加者は13名と若干少なめでしたが紅葉の真っただ中の10月18日から20日までの3日間、当会の運営に日頃ご協力いただいていた伊達市の議会、協賛企業等との交流を深めた他、ご当地開拓、先人達の墓参り、記念植樹など訪問の足跡を残してまいりました。

最近、伊達市の話題としてマランソ金メダリスト高橋 尚子さんが伊達市に1万1千平方メートルの耕地にQファームと称する農業を始めたこと。9月には当人参加のマランソ大会や収穫祭等を計画しているそうです。

新たな出発

神奈川北海道人会

代表幹事 阿部正夫

35年の歴史ある神奈川北海道人会は2年前の「道産子の夕べ」開催以来、再三理事会の招集を掛けたが事務局不能により、窮地に立たされておりました。よ

うやく少ない人数で理事会を開催したところ、会長の責任論まで出る始末、伊野

会長に相談、「解散することは簡単、少ない人数でやってみたら」との助言を受け、それから何度となく4〜5人の理事で集まり、方向を決めることになりました。

約7年間会長を務めた私が事務局（代表幹事）を担当し、一番古くからの中心的作用を担当してきた今政幸副会長が会長に就任することで新たな道人会が再スタートすることになりました。

今政 幸会長（小樽市出身）は小樽で生れ、三井美唄で育ち学生時代を札幌で過ごした。卒業後は横浜で建設塗装業の会社を経営の傍らポツデザイナー画家として活躍しており多彩な人物です。今でも現役で作業現場に出て張り切っております。

佐藤 輔之副会長（小樽市出身）は北海道の食材にピッタリの「辛子味噌」作りの名人、田中 真知子副会長（函館市出身）は横浜駅前（天理ビル）で司法書士事務所を経営、阿部 正夫代表幹事（松前町出身）は、昨年サラリーマン生活を卒業、自由人として新たな人生を歩んでおります。以上の4人のメンバーで「ふるさと北海道」は応援してまいります。

又、少ない人数ながら初心に戻り「北海道・道産子の夕べ」を開催すべく役員が団結してまいりますので、北海道出身で神奈川県にお住まいの方、北海道が好きの方、老若男女が一時でも楽しい会でありたいと願っております。

応援宜しくお願いいたします。

世紀の海峡トンネル工事

北海道福島会

副幹事長 森 理恵子

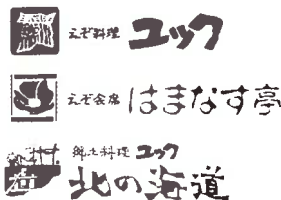
我が町「渡島ふくしま」が最も脚光を浴びたのは、1985年に貫通した青函トンネルの基地だった頃です。本坑起工より10年も前、1961年には先進導坑のさらに前段階、斜抗掘削が始まりました。外国人技術者が長期逗留し、鳥羽サルベージの一行も常泊。実家が旅館であったことで、幼な心ながらも間近で見おりました。

東京から代議士や共同企業体の各社幹部が次々と視察に訪れ、当時の賑わいはお祭りのようで未来の希望に満ちた町に映りました。ところが、貫通の歓喜も東の間、松前線の廃止で駅も消え、従事者の撤退で商店街は疲弊し、13,000人を超えていた人口は現在5,300人以下と激減しました。

多くの犠牲者を出した上に完成した海底の道は、北海道民の生活に有益な形で活用されていくことを切に願っております。とは言え、千軒岳の高みは厳かで、矢越の岬は神秘的。晴れた日は海峡の対岸に内地の稜線がくっきりと浮かび、我がふるさととは今日も凛として変わりありません。是非、ご来町下さい。

北海道札幌定山溪温泉創業82年「ホテル鹿の湯」が直営

北の食文化は、素朴で美味しく、暖かい。



竹橋店	3211-6575	はまなす店	3237-7770
新橋店	3501-3983	新宿エルプラザ店	3340-3321
新宿店	3344-6586	北の海道渋谷店	3486-1506
横浜西口店	045314-7895	北の海道虎ノ門店	3502-6806
銀座店	3567-3388	北海道千歳空港店	012346-5830
大崎店	3779-9325		

東京営業本部 〒105-0004 東京都港区新橋5-14-4 新倉ビル6F
TEL (03) 3434-1253 FAX (03) 3436-7479

ホームページ: <http://www.yukku.net>